

12月会長定例記者会見

Q. BS4K・BS8K 開局にあたって

A. (上田会長) 新しい二つのチャンネルは大きなトラブルもなく順調に放送を開始しました。「いよいよ、新しい時代が始まった」という実感とともに、放送の新しい価値を視聴者のみなさまにしっかりとお届けしなければならないという覚悟を新たにしました。12月1日は、渋谷ストリームホールでのイベントや、全国の放送局や施設で行った受信公開で、多くの方に4K・8Kの魅力に触れていただきました。少しでも多くの方に楽しんでいただけるよう、更なる普及促進に取り組んでまいります。

年末には「NHK紅白歌合戦」の8Kパブリックビューイングを行います。東京・日比谷の「東京ミッドタウン日比谷」で大画面による上映を行うほか、全国の放送局の一部でも受信公開を行う予定です。そのほか、1月も魅力的な番組を放送します。BS8Kでは、1月は文化・芸術の番組を重点的に編成します。1月1日から3日間にわたり放送する大型シリーズ「ツタンカーメンの秘宝」や、200年以上の歴史を持つパリの宝飾店の職人による石留めの繊細な技などをとらえた「時を超える輝き～世界最高峰の宝飾メゾン～」など、超高精細の映像で貴重な文化財や美術品を細部までお楽しみいただけます。引き続き、4K・8K放送の普及とコンテンツの拡充に努めてまいります。

(詳細は報道資料参照)

Q. 「NHKグループ働き方改革宣言」から1年について

A. (会長) 昨年12月に「NHKグループ働き方改革宣言」を公表し、働く人の健康を最優先にこの1年、NHKグループが一体となって、長時間労働に頼らない組織風土づくりや業務改革に取り組んできました。佐戸未和さんの過労死を重く受け止め、公共放送とともに支える大切な仲間を失うようなことはあってはならないと、改革を進めてきたところです。

それぞれの職場の取り組みで、着実に改革の成果は出てきています。このうち記者の休みの日数は、今年度の上半期は災害が相次ぐ中でしたが、昨年度の同じ時期と比べ2.4日増えています。地域放送局の記者の泊まり業務も、緊急対応の体制を確保したうえで段階的に集約を進め、部分的な集約も含めると40局近い地域放送局で集約を可能にしました。また番組制作では、今年4月からNHK本体が制作する番組のスタジオ収録を22時に終了することを原則にし、本部では約9割の番組で達成しています。

改革宣言2年目は、来年4月に改正労働基準法が施行されることなどを踏まえて新しいルールを守り、新しい働き方を実現することを目指します。今後も私がリーダーシップを発揮し、グループ全体で一丸となって、心身健やかに働けるク

リエイティブな職場を作るべく、さらに取り組みを前に進めてまいります。

Q. 教育テレビ放送開始60年について

A. (会長) Eテレの愛称で親しまれている教育テレビは、来年1月10日で放送開始から60年を迎えます。教育テレビは、テレビを教育のためにも活用しようとして、小・中学校向けの学校放送番組などを中心に放送を開始しました。以来、趣味や教養、それに福祉といった多彩な番組で幅広い世代のみなさまに親しまれています。

60年を迎える来月、Eテレの歴代のキャラクターたちをキルトや刺しゅうで表現し、懐かしの映像を交えて紹介する特別番組を放送します。20人のキルト作家が、「おかあさんといっしょ」の『にこにこ、ぷん』など、それぞれ思い出のあるキャラクターを制作します。スタジオにはゴン太くん、はに丸、がんこちゃんも登場し、連続テレビ小説「半分、青い。」のカンちゃん役、山崎莉里那さんらが出演します。世代を超えて親しまれてきたキャラクターたちを通してEテレ60年をあたたく見つめ直します。

Eテレを代表する幼児向け番組のひとつ「おかあさんといっしょ」も来年10月で放送開始60年となります。NHK・Eテレは、今後も公共メディアとして、将来を担う子どもたちの情操を育む番組や、幅広い世代の「知りたい」「学びたい」にお応えする番組など、多彩で質の高いコンテンツをお届けしてまいります。

(詳細は報道資料参照)

Q. 平成30年度第4期末の営業業績(見込み)について

A. (会長) 契約総数の増加は67万5千件で、30年度の営業目標43万件に対して157.0%、衛星契約の増加は54万1千件で、営業目標58万件に対して93.3%の進捗となる見込みです。

引き続き、視聴者のみなさまに公共放送の存在意義や受信料制度を丁寧に説明し、支払率の向上に努めていきます。

(詳細は報道資料参照)

(以上)